

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号807

発生場所 エレベーター

発生場所（その他）-

関連したもの

点滴スタンド、エレベーター

精神・意識障害の有無

無

発生内容の分類

挟み込み、ドレーン・チューブ

リスク

C. 不適切な環境設定・維持管理不足によるリスク

発生内容

エレベーターに乗ろうとした患者の点滴ルート挟み込み事例

概要

点滴中の患者が単独で病棟外に出かけていた。病棟に戻る際、エレベーターホールに到着すると、ちょうど開いていたエレベーターがあったため、開閉ボタンを押さずにそのまま乗ろうとした。点滴スタンドを先にエレベーター内に入れたところで扉が閉まってしまい、点滴ルートを挟んで患者はエレベーターの外、点滴スタンドだけがエレベーター内に閉じ込められた。そのままエレベーターが動き出し、患者はとっさの判断で点滴ルートを引きちぎった。患者は別のエレベーターで病棟に戻り、看護師に報告した。エレベーターを探索すると、点滴スタンドと点滴ボトルだけが残っており、点滴ルートは見当たらなかった。エレベーターの床面に約3cmのすき間があり、そこから落下した可能性がある。

要因

- ・エレベーターの開閉時間を5秒に設定している（車椅子用ボタンを押した場合は10秒）。本事例では、開いているエレベーターにボタンを押さずに乗ろうとしたが、この時、エレベーターが閉まる寸前だったと考えられる。
- ・センサーは、ドア部分の下方にある光電管装置が2本のタイプである。点滴スタンドはセンサーを通過したと思われるが、何らかの事情で5秒が経過し、患者が乗り込む前に扉が閉まってしまった。

対策

- ・ドア開閉時間の延長を検討している。ただし当院の建物の構造、エレベーター使用状況から、エレベーターの待ち時間がさらに長くなり、クレームや搬送等の業務に支障を来す可能性がある。
- ・現在の光電管装置（2本）を、マルチビームドアセンサー（ドア部分のほぼ全面にあるセンサーで乗り降りを感知する）に変更することを検討中。

参照



エレベーターホール



光電管装置



床面のすき間約3cm



光電管装置とマルチビーム
ドアセンサー